

【防災知識の普及】

多言語防災ビデオの作成と活用について

仙台市文化観光局交流企画課

仙台市では、現在、外国人住民に対する防災啓発・災害時の支援は文化観光局交流企画課が所管しており、地域国際化協会への委託または同協会の事業としてともに実施している。また、平成 27 年 4 月、本市の地域国際化協会は合併により新法人を設立したため、本稿においては平成 27 年 3 月までは仙台国際交流協会と、それ以降は仙台観光国際協会と記載する。

1. 多言語防災ビデオの作成

仙台国際交流協会では、東日本大震災発生以前から多言語での防災ビデオを制作し、外国人住民へ向けた防災啓発活動に取り組んでいたが、東日本大震災での経験をふまえ、平成 24 年に新たに多言語防災ビデオ「地震！その時どうする？」を制作した。地震について知識や経験のない外国人住民を主な対象として、地震（津波を含む）に対する備えや地震が発生した場合の対応について映像資料でより分かりやすく伝えるとともに、防災の備えを促すことを目的としたものである。

本ビデオは、平成 24 年 2 月に第 1 版として、日本語、中国語、英語、韓国語の 4 言語で制作を行った。2 部構成となっており、Part1 では地震（津波を含む）への備えを、Part2 では地震が発生した場合の対応について紹介しており、各パートとも本編 10 分ずつで編集されている。

当時、多言語防災ビデオが全国でもあまり例がなく反響をいただいたこと、また、仙台市においてベトナム人やネパール人留学生が急増していた社会的背景などをふまえ、その翌年、仙台市における外国人住民の使用言語別割合に基づいて新たに 8 言語（インドネシア語、台湾語、タガログ語、ネパール語、ベトナム語、ベンガル語、ポルトガル語、モンゴル語）を追加し、計 12 言語すべての言語に字幕を追加した第 2 版を制作した。ビデオは、DVD として市内の日本語学校、大学、日本語教室等に配布したほか、動画共有サイト YouTube への掲載や、仙台国際センター内にある市民交流スペース「交流コーナー」での視聴や貸出を行った。

ビデオの特徴としては、地震について知識や経験のない外国人住民を対象としていることから地震への備えとして最低限必要な知識にポイントに絞り分かりやすく説明していることや、仙台市在住の外国人留学生や市民と意見交換を繰り返しながら協働で制作し、より実用的な内容に作り上げたことが挙げられる。また、本ビデオを DVD として配布するだけでなく、全国で活用できるよう動画共有サイト YouTube に掲載した。そのため、内容についても、東日本大震災の教訓を取り入れたり、震災時の映像を入れることで地震や

津波がどのようなものかということを視覚的に伝えつつも、仙台市に特化した情報ではなく、一般的な防災情報が伝わるように工夫をしている。

その後、平成27年に本ビデオを再編集し、15分間に縮小したダイジェスト版を制作し、外国人住民との防災に取り組む自治体や地域国際化協会、市民団体から希望があれば無料で提供している。

2. 多言語防災ビデオの活用

上述したとおり、本ビデオは動画共有サイト YouTube 上で誰でも自由に視聴できるほか、仙台国際センター内「交流コーナー」での視聴や貸出が可能である。

また、各種事業の中で本ビデオを活用し外国人住民の防災意識を高める啓発活動に取り組んでいる。

具体的には、仙台観光国際協会とともに、東北大学留学生などの外国人留学生居住地域において外国人住民等を対象として実施している「外国人市民のための防災教室」において、本ビデオを活用し、災害時に必要となる知識や技術を身に着けるための訓練を行っている。また、日本語学校等に出向き実施している生活オリエンテーションや外国人住民を対象として開催している日本語教室において、本ビデオを活用し、覚えておくべき災害時の用語についての説明や日頃の備えの大切さなど事前準備の必要性を伝えている。

今後も、多言語防災ビデオの広報に引き続き努め、外国人住民が防災について学ぶ機会を増やし防災意識の普及・啓発を進めることで、外国人住民も安心して暮らしやすい社会の形成に向け取り組みを進めていきたい。



図表 多言語防災ビデオ (DVD)